

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 藤岡市立藤岡第二小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒375-0024
群馬県藤岡市藤岡 991 番地

E-mail：fujiokadaini-1@fjdaini-es.gsn.ed.jp

Website：http://10209.schoolweb.ne.jp/fujioka/fujioka2-e/

児童生徒数 男子 322 名 女子 308 名 合計 630 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

| 平成27年度 総合的な学習の時間 5年 | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--------------|--|--|
| 単元 | 「鬼瓦をつくろう」(自由総合) | | | | 関連分野 関連教科 | 社会・図工・道徳 | |
| 時期 | 5月4週～7月2週 | | | | 時数 | 27 | |
| ねらい | 地域の伝統産業である瓦作りに着目させ、瓦や鬼瓦について主体的に調べたり、実際に作ったりする作業を通して、地域産業や郷土のよさに積極的に関わっていこうとする態度を育てる。 | | | | | | |
| 評価規準 | | | | | | | |
| 関心・意欲・態度 | | 思考・判断 | | 技能・表現 | | 知識・理解 | |
| ・学校周辺の屋根瓦や鬼瓦を見学するなどして、藤岡瓦に関心を持つことができる。 | | ・瓦の歴史や、藤岡市と瓦産業の関連を考えることができる。 ・瓦や鬼瓦を作る職人さんの仕事に対する考えや思いを考えることができる。 | | ・自分でデザインした鬼瓦を作ることができる。 ・調べたことを表やグラフを用いながら新聞にまとめることができる。 | | ・藤岡の瓦作りの歴史について知ることができる。 | |
| 過程 | 時間 | 学習活動 | 子供の意識の流れ | 主な支援 | 評価観点 | 評価項目(評価方法) | |
| ふれる・つかむ | 10 | ①瓦について知っていることを話し合う。見学の計画を立てる。 ②学校周辺の屋根瓦や鬼瓦の見学をしてまとめる。 ③瓦職人から、瓦についての話を聞く。 ④瓦について調べたい自分の課題を見つける。 | ・瓦と藤岡市って、どんな関係があるのかなあ。 ・大きな鬼瓦がのっている屋根があるなあ。 ・瓦にもいろいろな種類があって、性質が違うんだなあ。 ・瓦について調べてみたいなあ、調べよう。 | ・活動に対する意欲を喚起させるため、気が付いたことを絵やスケッチでまとめるようにする。 ・瓦マップを作って課題を見つけやすくする。 ・メモの内容や質問の様子をチェックし、励ましや賞賛の声かけをする。 ・五十嵐さんより「瓦の歴史」と題して話して頂く。 ・課題の設定にあたっては、今後の核となる部分なので、一人ひとりとの対話を大切に、適切な課題が設定できるよう十分配慮したい。 | 関 思 関 | ○瓦に関心をもとうとしている。 ○メモをしながら話を聞こうとしている。(観察・ワークシートの記入の様子) ○聞いたことをもとにして、自分の課題をもてる。(ワークシート) | |
| 追究する | 14 | ①瓦や鬼瓦について調べ、「瓦新聞」を作成する。 ②調べたことを発表する。 ③鬼瓦についてプレゼンテーション「鬼瓦をデザインしよう」を視聴する。 ④自分の作る鬼瓦のスケッチをする。 ⑤鬼瓦の製作をする。 | ・調べたことを、新聞にまとめて、みんなにも見てもらいたいなあ。 ・友達の新聞は、参考になるなあ。 ・鬼瓦を作ってみたいなあ。 ・鬼瓦の基本デザインをもとにして、自分らしい鬼瓦を作りたいなあ。 ・鬼瓦作りは、大変だけど、最後まで丁寧に作ろう。 | ・図書館の資料やインターネットを使って調べる際に、アドバイスや資料の提供を行う。 ・調べたことを自分のものにするように心がける。 ・鬼瓦について一層の興味関心を高める。 ・鬼瓦についてのビデオも視聴する。 ・自分の思いや願いを込めてデザインし、絵だけでなく文でも表す。 ・山口さんを講師に招き、制作の指導をしていただく。 ・作品のできあがりよりも、作品を製作しているときの取り組みの様子をみとる。 | 思 知 技 | ○聞いたことや、調べたことをもとにして記事を書くことができる。(新聞記事) ○自分が調べたことを身に付けたり、友達が調べたことが分かる。 ○鬼瓦を作ることができる。 | |
| 生かす・広げる | 3 | ①焼き上がった鬼瓦の鑑賞発表会をする。 ②体験しての感想を書き、話し合う。 ③お礼のお手紙を書く。 | ・一つしかない鬼瓦ができ上がった。大事にしよう。 ・みんなの鬼瓦もいいところがたくさんあるなあ。 ・お話をして頂いたり、実際に作るのを教わったり、焼いていただいたり、たくさんお世話になったので、感謝の気持ちを伝えたい。 | ・鑑賞会や発表会では、大きな声でみんなにわかるように発表することが大切だということを前もって指導しておく。 ・藤岡には素晴らしい伝統工芸があることを知ったことから、藤岡の素晴らしさを実感させたい。 | 表 表 | ○自分の鬼瓦制作の苦労した点や、友達の作品よさに気付く。 ○自分の努力だけでなく、職人さんの協力があったからこそできたという意識が持てる。 | |
| 備考 | 本年度は、1学期に五十嵐さん瓦についての話、山口さんに鬼瓦作りの指導をして頂いた。鬼瓦作りの指導をしていただいたときに、児童からのお礼の手紙を山口さん、五十嵐さんにお渡しした。 鬼瓦作りに必要な物(絵の具の水入れ・新聞紙・粘土ペラ・タオル・新聞紙・木の板) 山口さん(山口鬼瓦店) 22-0579 鬼瓦作り 五十嵐さん(共和建) 22-0321(FAX 24-7030) 瓦焼き (瓦を焼いていると、何十時間も釜からはなれられないので、ファックスでやりとりするとよい) | | | | | | |
| 資料・関係図書など | ・「まんが 藤岡の歴史」 ・市内公共施設にある瓦の写真を投影機で見せられると効果的である。(市立図書館など) | | | | | | |

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

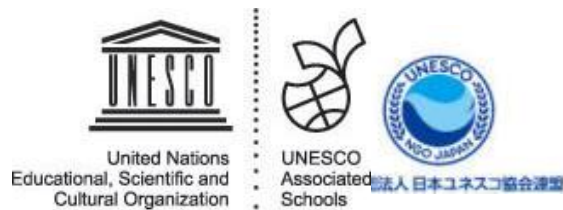
通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（）

ユネスコ通信



平成27年8月号
発行 藤岡地方ユネスコ協会
会長 岸 正博
広報担当 櫻井 智子
引田美佐子

ユネスコスクール訪問 藤岡市立藤岡第二小学校

伝統技術を学ぶ・・・第二小5年生の鬼瓦制作

今年で22回目

かつて「藤岡瓦」として全国でも有名な瓦産地だった藤岡は、伝統的な「だるま釜」を使った窯業が盛んだった。しかし、機械化の進展とともにだるま釜は減っていき、今では全国で数基しか残っておらず、そのうちの2基が市内緑町の共和建材（五十嵐清社長）にあり、貴重な現役として今も瓦を焼いている。別名「いぶし瓦」として、今でも全国に根強い愛好者がおり、注文してから納品は3カ月待ちだ。

そんな地元の伝統技術を体験しようと、市内の小学校では平成2年から鬼瓦制作体験が行われてきた。ユネスコスクールでも



ある藤岡第二小学校（柴岡則之校長）の鬼瓦実習は今年で22年目を迎える。5年生109人が先生に引率されて「窯出し」に訪れたのは7月7日。時折雨の降る七夕の日だった。

鬼瓦は5月26日、市内の鬼瓦師で「現代の名工」（厚労省認定）である山口茂さん（芦田町）の指導で成形したものだ。小学校体育館でソフトボール大の粘土をこねて、角を付けたり牙を付けたりして思い思いの形で



仕上げた。学校で2週間ほど陰干しをしてから、6月17日、共和建材に運び入れ焼いてもらった。

焼きは「昼から昼まで」24時間、980度の火で焼かれ、火を止めてから冷却して3日目の朝に窯のふたを開ける。それでも300度の熱が残っていると五十嵐さんは説明する。文化庁の規定では「1300度で焼かれたものでなければ、文化財として認めない」となっているそうだが、藤岡は粘土質が良く、980度でも十分に良質の瓦が焼ける、という。

約1000枚の瓦と一緒に焼かれた109枚の鬼瓦は粘土成形した時とは違って、一回り小さく縮み、独特の瓦色に変わっていた。そのため自分の鬼瓦がなかなか見つからない児童も。

「家の守り神にしましょう」という先生の言葉に、児童たちは嬉しそうに新聞紙でくるんで持ち帰った。（岩崎 哲）